

竹林整備

11月14日(日)、生徒・保護者20名、教職員7名、竹林をよくする会の皆様に御指導を賜り、本校南側斜面の竹林整備を行いました。

多くの方に御協力いただき、竹の伐採、搬出、粉碎後に竹チップを堆肥にかえる準備までを終えることができました。

令和4年度は、竹を使う活動も考えています。5月1日、7月24日、11月13日の3回、皆様の参加をお待ちしております。



地域協働事業

地域協働事業の一環として、ライフデザイン科の生徒が、12月19日(日)の小松地域未来塾に参加しました。

「海の恵みの魚食弁当」を開発し、小松婦人会の方々を調理しました。お弁当は、地域の方々に食べていただきました。

そして、椿の水引細工や消しゴム判子作りの講習会を実施しました。魚食、椿文化の普及と多世代交流を図ることができました。



編集後記

本年度もコロナの影響により行事が十分行えませんでした。寂しい年ではありましたが、生徒たちの一生懸命に高校生活を楽しもうとしている姿がPTAにとって希望となる年となりました。

戸田 潤二郎

今年も昨年に続きPTA活動も制限され何も出来ませんでした。来年度は例年通りの活動が出来るようになればと思います。今年で卒業となりますが、三年間有り難うございました。

高橋 宏明

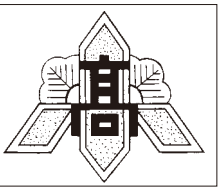
三年間ありがとうございました。PTA役員に声をかけていただいたおかげで思っていた以上の出会いがありました。コロナで思うようにいかないこともありましたが、その分、気付きや感謝の多い年でした。早く思い切り活動できる日が送れることを願っています。

高市 佳代

平塚 善子



発行所 小松高等学校
編集責任 PTA文教部 総務厚生課



校章の由来
松に囲まれた小松高校を抽象化した松の絵に小松の「小」と「高」を配した。

積微力行



諦めない気持ち

PTA会長 藤原 芳宏



今年度もあと少しで終わろうとしています。日頃より保護者の皆様には、PTA活動に対し御理解と御協力をお願いしております。また、教職員の方々には様々な活動に積極的に御協力いただいておりますこと、お礼申し上げます。

PTA会長という大役を引き受け、二年目が終わろうとしています。様々な活動を通じて生徒達や会員の皆様、役員や教職員の皆様と交流の場を作りたい、昨年度学校生活や部活動など活躍の場に制限をされた生徒達を応援したいという気持ちから、PTA活動目標として「今こそ一致団結！子ども達の明るい応援団」を掲げ今年度をスタートしました。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、PTA総会が書面開催になり、第一回、第二回の竹林整備、PTA研修旅行が中止になり、そして色々な講義や講習会も中止や書面開催になりました。

そして、コロナウイルス第五波の影響を受けて体育大会、引き続き小松高祭の無観客開催が決定し、PTA活動としての参加もできませんでした。何とかして保護者の観覧の参加だけでもできないか探しましたが、小松高祭が受けた影響が大きく、三年生は就職活動、進学に向けた大切な時期でもあったため、無観客という苦渋の決断となりました。それでも先生方は、YouTubeライブ配信という形で、小松高祭の準備や、小松高祭本番での苦闘をしながらも、努力をすることをやめない生徒達の様子を伝えてくれました。また、ライブ配信を利用してハイライトではあります。今年度の小松高祭はライブ配信という形には

一年を振り返って

校長 松浦ヨリ子



春の足音が近づいてきました。保護者の皆様にはこの一年間、本校の教育活動に対し、御理解・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、十一月には竹林整備に多数のPTAの皆様が御参加いただき、ありがとうございました。令和元年度卒業式から始まるコロナ禍による混乱は、二年続きで教育活動に大きな影響をもたらしました。学校では、始業時や部活動開始時の体調確認、マスクの正しい着用、黙食、換気、手洗いや手指消毒、校内の消毒などできる限りの感染症対策に努める毎日でした。学校行事や対外的な大会も、変更や延期が続いています。打ち込んできた部活動の公式戦に万全の状態を臨めないことや発表の機会を失うことに、涙を浮かべながら懸命に耐えた生徒たちの顔を忘れることはできません。体育大会や小松高祭は非公開とせざるを得ませんでした。保護者の皆様には、柔軟に対応していただき、感染症対策に御協力いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

様々な制約がある中、生徒たちは、私たちの思いをしっかりと汲み取ってくれ、それぞれの場面で為すべき役割を果たしてくれました。その素直さ、前を向く力、仲間と協働し最善のものを作り出す姿が強く印象に残っています。校内で出会ったときに交わす気持ちのよい挨拶、学習や進路実現に向けた取組、毎日ひたむきに頑張る姿、窮屈な生活の中でも生徒たちはよく頑張っています。このような姿勢は、学校教育だけでは育成できないものであり、御家庭での温かい導きがあつてのことです。いつ制約のない学校生活に戻れるのか予測できませんが、多感な成長過程にある生徒たちが決して大切なことを見失うことのないよう教育活動の活性化に努め、保護者の皆様とともに更なる成長を促していきたいと考えています。

地域協働事業においては、課題解決学習や多

世代交流を通して地域に貢献できる生徒の育成に取り組んでまいりました。十二月には婦人会の方と「海の恵みの魚食弁当」二五〇食の提供、多世代六〇名の方と椿文化の普及活動で交流し、皆様に喜んでいただきました。これからの体験は、これからの時代に必要とされる、人と協働する力、考え行動する力、コミュニケーション力の向上につながっています。何より生徒たちに人とのつながりを大切にする心や自信が育つことは大きな収穫でした。

三年生は、一月末現在、ほとんどの生徒が進路先を決定しています。今年度の進路状況は、四年制大学・短期大学進学者、各種専修学校進学者、就職者の割合が、およそ四対四対二です。進学決定率は、専門学校が一〇〇％、大学・短大は二月から一般入試が始まることもあって、大学八六、〇％と健闘しています。大学入試においては、国立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜で愛媛大学、都留文科大学等に四名が合格しており、現在も一般入試に挑戦しているところです。私立大学は松山大学を含め、三四名が合格しています。全員が希望する進路に決定できるよう取り組んでまいります。

今年度から一人一台端末が配備され、オンライン授業や日常の授業等で活用する機会が徐々に増えています。私たち教員もまだ試行錯誤の段階ですが、学ぶ意欲の向上と確かな学力の定着が図れるよう効果的な活用を進めていきます。御家庭におかれましては、この変化の中で、御負担が増えることがあるかもしれません。何かありましたら御相談をいただければと存じます。

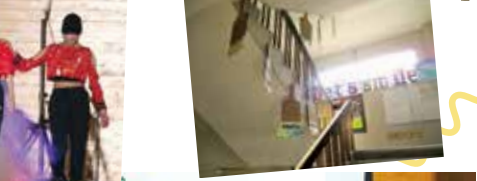
昨年度から養正会に御協力いただいて、学校で受検する実用英語技能検定の五〇％を補助しています。今年度は延べ九二名の生徒がこの制度を活用しており、様々な分野で応用できる力があると認められる二級に合格するなど、成果を上げています。今後、生徒たちに「やる気と自信の種」を持たせる取組に力を入れ、志高く自己を鍛える小松高生を強力にバックアップする環境整備を進めてまいります。今後とも小松高校発展のため、皆様の御協力・御支援をお願い申し上げます。

小松高祭

10月29日(金)、『Let's Smile -笑顔で繋ぐ小松の伝統-』をテーマに、生徒の学習活動や部活動の成果を発表し、豊かな情操を身に付けるとともに、プレゼンテーション能力を育てることを目標に開催しました。

- 開幕演奏上映(日本音楽部)
- ライブデザイン科によるファッションショー(全生徒鑑賞)
- 文化部・各種委員会・生徒会・クラスによる作品展示・研究発表

保護者限定の配信を行い家庭で視聴できるようにするとともに、校内3か所にパブリックビューイング会場を用意し、生徒たちはライブ視聴できるようにしました。生徒は日頃の学習や活動の成果を存分に発揮することができました。



体育大会

9月7日(火)の体育大会は、手指消毒を徹底したり、生徒席にテントを設置したりといった、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策や熱中症予防策を講じながら実施しました。生徒は、競技中はマスクをはずしませんが、競技中以外はマスクを着用し、応援も声を出さず、拍手で行っていました。

応援競演では、夏休み中から、各グループとも、声を出さない新しい応援を考え、当日は、すばらしい応援競演を披露してくれました。



- 総合優勝
〈青嵐〉グループ
- 応援優勝
〈紅炎〉グループ
- 競技優勝
〈青嵐〉グループ
- 装飾優勝
〈青嵐〉グループ

